

針ノ木岳山スキー報告

日時：2017年5月28日(日曜日)

メンバー：菊池リーダー、滝本さん、鈴木さん、南部さん、渡辺トシ(報告者)

工程：8:00 扇沢駅(1420m)→9:10 堰堤脇スキー装着(1680m)→11:40 マヤクボ沢下部(2240m)

アイゼン装着→14:00 針ノ木岳山頂(2820m) - 15:40 堰堤スキー外し - 16:20 扇沢駅

10年ぶりの針ノ木岳山スキー。上信越道の上田辺りまでは曇り空であったが、どんどん雲



が消えていき、扇沢の駐車場に付く頃にはすっかり晴天となった。それに伴い、皆の士気も高まってきた。あっという間に準備を終え、針ノ木岳の登山道に向かう。最初の1時間は沢沿いの登山道を、背中に担いだスキー板が木に引っ掛かるのを避けながら進む。所々雪渓が残っており、今シーズンは雪が多かったことを伺わせる。そして最後の堰堤を越えた所で、シールを付け

たスキーに履き替え進む。マヤクボ沢の下部に到達すると、斜度が一気に上がり、シールからアイゼンに履き替える。ここから先はぐんぐん標高を稼げるが、疲労度も大きい。這々の体で頂上直下の鞍部に着いた。

さらに山頂を目指そうとすると、目の前に雪壁が立ちはだかる。スキーを背中に担いだまま登り始めたが、途中からは手を雪面に挿して3点確保を維持しないと、バランスを崩して滑落する危険が出てきた。ピッケルを持たず、スキーを履いていない状態では、広大な雪の急斜面の上で、滑落したら最



後、自分の体を止める術はない。下山中のツボ足ハイカーからも、「2時間前に500m程滑落した山スキーヤーを見た」と警告されていたので、ヒヤヒヤものである。何とか雪壁

を越えて山頂に立ったが、下りのことが気になり、イマイチ喜びに浸れなかった。雪壁の下りも、登りと同じ向きで慎重に雪を蹴り、足場を崩さないようにして下った。何度も指を雪壁に挿しているうちに、百均の手袋はずぶ濡れになり、指は段々霜焼けになってきた。

何とか、山頂を踏んだ南部さん・鈴木さん・渡辺の3人は、稜線鞍部まで下り菊池しと滝本

さんに合流。ここからはスキー滑走となる。斜度は急でテレマークターンは自分の技量では無理だが、程よいザラメはアルペンターンで安全に下れる。ほぼ快晴で、豪快な谷を滑るのは気持ちが良い。快調にビュンビュン飛ばす菊池リーダーに置いていかれないように



何かとついて行った。

2つ目の堰堤脇でスキーは終了。後は再びスキーを担いで、登山道を下る。途中、ふきのとうやコゴミを見つけたが、少し開き気味で、採るのは諦めた。16時過ぎに閑散とした扇沢Pに到着。登り6時間下り2時間の山行であった。長距離運転の前の立ち寄り湯は大町温泉郷にある上原の湯(400円)。露天風呂がないのが少し残念だった。